

H26年度 学校評価結果公表シート

学校法人 廣瀬学園
名張よさみ幼稚園

当園では、平成26年度の幼稚園学校評価として、教職員事故評価及び、学校関係者評価を実施致しました。教職員自己評価においては、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園経営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直し、更なる事故研鑽を目指す非常によい機会となりました。
今年度の学校評価結果を活かし、来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 教育目標

教育目標

「清く・正しく・たくましく」 自らの力で行動できる幼児を育成する

教育方針

「自立心・自主性の育成」

教育の特徴

1. 強い身体を育てる。(体育遊び、乾布摩擦を通して)
2. 自然や社会の身近な環境に親しむ。(栽培や飼育活動、行事などを通して)
3. 人とかかわる力を養う。(異年齢交流、地域交流を通じて)
4. 豊かな感性と想像力を養う。(数と言葉の遊び、音楽リズム、造形活動を通して)
5. 「6つの心」が自然と身に付くように育てる。(社会、言葉を通して)
 - ・「おはようございます」という 明るい心
 - ・「はい」という 素直な心
 - ・「すみません」という 反省の心
 - ・「わたしがします」という 積極的な心
 - ・「ありがとうございます」という 感謝の心
 - ・「おかげさまで」という 謙虚な心

II. 今年度の重点目標

自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設や教育内容の改善に主体的に取り組んでいくための姿勢を身につける。
また、周囲の自然や子育て支援の充実など自園の長所を確認し、特色を活かした教育を行っていく為の土台を作る。指導計画を振り返り、子どもの持っている本来の可能性を引き出せる保育に努力する。

Ⅲ. 評価項目と取り組み状況

評価項目		具体的確認項目	評価	取り組み状況
1	教育方針・目標	園の教育方針や目標、園長の思い等を共有することができるか。また、その為にどのような取り組みがなされているか。	A	毎日の朝礼では、園の教育方針、目標等を職員全員で唱和しし、念頭に入れ、日々保育に携わっている。また、都度、会議を設け、振り返る機会を作り、共通理解を深めている。行事などの内容もねらいがぶれないよう話し合い取り組んでいる。
2	指導計画の作成と評価	保育カリキュラムの評価・反省を行い、次の保育と計画に活かせるように取り組んでいるか。	B	日案の大切さを伝え、日々の記録、自己の振り返り、反省の欄に重点を置き記入している。年間カリキュラム、月案なども日々見返し、振り返りと次への目標をしっかりとふまえて保育している。学年会議の充実も図り、各組の進め方に違いが内容努力している。
3	教育環境の構成	異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成ができているか。また、その為にどのような取り組みを行っているか。	A	異年齢保育の充実が成されるための環境構成、グループの作り方、教師の役割、保護者への報告を会議で検討している。特に、ねらいや関わりを保護者に伝えることで異年齢の関わりのおおきさを伝え、関心を高めている。異年齢保育の取り組みから数年経つことにより自然な関わりも増え、思いやる気持ち、あこがれの気持ちが芽生えている。
4	指導と関わり	幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することができる環境を整えているか。	B	音楽や造形、体育遊びなど身体全体を使った動的な活動と茶道などの静的活動の保育を総合的に実践している。また、戸外あそび、室内あそび、設定保育と様々な場面での保育のあり方を見直し、環境作りの大切さを理解しあっている。
5	研修・研究への取り組み	研修・研究への取り組みが十分に行われているか。	A	園内研修の充実を図るため、講師を主体とする研修を深めたり、公開保育をし、職員の意識を高めていけるよう取り組んでいる。職員会議を定期的に行ない、子どもの様子や声かけ、子どもの姿、保護者対応の仕方についても、共通理解をもって対応をするよう心掛けている。

評価項目		具体的確認項目	評価	取り組み状況
6	安全管理体制の整備	安全管理の為に体制は十分に整っているか。 また、具体的にどのような取り組みを行っているか。	B	避難訓練を分野ごとに定期的実施し、災害への対応の仕方を理解し、当日の終礼で反省することにより、今後に生かせるようにしている。 園内立入証を配布、運用することで、外部者や不審者を防いだ。 また、個人情報の流出が内容、職員で共通理解を深めた。
7	衛生管理体制の整備	衛生管理の為に体制は十分に整っているか。また、具体的にどのような取り組みを行っているか	A	消毒の種類にも気をつけ、給食時の消毒の徹底、また、未就園保護者の来園する行事での消毒も励行している。戸外から戻った時には、手洗い、お茶うがいを徹底し習慣づけている。園児の排泄物、嘔吐物の処理法も徹底し、園全体に感染がないよう心掛けている。
8	地域の人々、自然との関わり	地域の人々や自然との関わりを積極的に持つことができているか。	A	小学校や中学校との交流や、老人ホームへの訪問を行っており社会への関わりを促進している。田植えや畑体験を通して地域の人と関わりを持ち、生長を身近に感じ食育にも関心を持つ。遠足に行き、四季の違いに触れる機会をもったり、公共機関でのマナーも身につけられるようにしている。

【評価の基準】

A	十分に達成されている
B	達成されている
C	取り組みはされているが、十分ではない
D	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	指導計画の作成と評価	指導計画の大切さを再認識するとともに常に子どもの姿と照らし合わせたり、振り返りながら職員間で話し合いをする機会を沢山もち、園全体の個々の子どもの共通理解を深めたい。行事への取り組みをスムーズに行えるよう計画性のある会議をもつようにしたい。
2	研修・研究への取り組み	人的環境、物的環境のあり方について話し合う機会を設け、今の子どもたちに必要な環境作りを見極める必要があると感じる。又、見守ることの大切さも視野に入れ子どもを見る目を養いたい。グループ討議研修を取り入れ、実践から気づき、考える力を共有し、保育の質を更に向上していく。
3	安全管理体制の整備	今までの避難訓練から、子ども、職員の動きに着目し、とっさの時の対応が出来るマニュアルを作りたい。不審者などの防犯対策にも注力していきたいと考える。
4	地域との連携	伝染性の高い病気が流行る頃には、老人ホームへの訪問が出来ないので、代わりに何が出来るか等、機会を有意義に活用し子どもたちの社会性を深めたい。 子育て支援にも更に入力園生活の良さを知ってもらえるよう努力したい。

V. 学校関係者の評価

上記の通り、適正に実行されていると判断できる。
この学校評価での反省を活かして、来年度さらに向上されていることを期待しています。

